

授業科目	歯科衛生士概論 I	担当教員	外部講師☆ ①各務 勲次 専任教員☆ ②安井真奈美	単位数	1	時期	1年次 4月～7月	
				時間数	30			
目的と目標	歯科衛生士の業務内容、歴史、職域、関係法規、保健・医療・福祉関係職種などの概要や、歯科衛生士を取り巻く環境について理解する。 1 歯科衛生士の基本となるコミュニケーションについて基礎的知識を習得する 2 歯科衛生活動の対象や領域について理解できる 3 専門職として備えるべき要件が理解できる							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員		
1 ～ 4	歯科衛生士に必要なこと 歯科衛生士法と歯科衛生業務	(1)オリエンテーション (1)歯科衛生士と歯科衛生士法 (2)歯科衛生士の役割 (3)関連法規 (4)医療安全・安全管理			講義	外部講師 (各務勲次)		
5	歯科衛生学とは	(1)歯科衛生学 (2)歯科衛生に必要な心構え				専任教員 (安井真奈美)		
6	患者対応	(1)患者の心理 (2)魅力ある歯科衛生士						
7	コミュニケーション	(1)言語的コミュニケーション (2)非言語的コミュニケーション (3)コミュニケーション技法について						
8	歯科衛生士と医療倫理	(1)倫理の必要性 (2)医の倫理と患者の権利 (3)対象の自己決定権の尊重						
10	医療安全	(1)医療安全・安全管理 (2)リスクマネジメント						
11	個人情報	(1)個人情報保護法						
12	討議	(2)他職種連携に向けた集団討議						
13	歯科衛生士の活動と組織	(1)歯科衛生活動の現況・活動の場						
14		(2)歯科衛生士と組織 (3)歯科衛生士の誕生と経緯 (4)業務の現状、歯科衛生士の役割と展望						
	海外における歯科衛生士	(1)海外の歯科衛生士のあゆみ (2)海外における歯科衛生士の現状						
15	まとめ（1時間） 試験（1時間）	(1)歯科衛生士概論 I のまとめ (2)筆記試験				試験		
評価方法		筆記試験（各務講師 30 点、専任教員 70 点）						
教科書・参考文献		歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学概論（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯科医療倫理学（医歯薬出版） 事例で学ぶ歯科衛生士の倫理綱領（医歯薬出版）						
事前準備や受講要件等								
☆担当職員の 実務経験		①歯科医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。 ②歯科衛生士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	歯科衛生士概論Ⅱ	担当教員	専任教員☆ ①安井真奈美	単位数	1	時期	2年次 6月～7月
				時間数	15		
目的と目標	歯科衛生業務において、歯科衛生過程のプロセス、アセスメント、歯科衛生診断、歯科衛生計画立案、歯科衛生介入、歯科衛生評価を理解する。 1 科学的思考・問題解決的思考を基盤とした、歯科衛生過程における思考の方法（歯科衛生過程）が理解できる 2 対象者の情報の整理と記録の方法が理解できる						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 ～ 4	歯科衛生過程の基本 情報収集について	(1)歯科衛生過程とは (2)歯科衛生過程活用の利点、流れ (3)歯科衛生過程の流れ (4)歯科衛生アセスメント (情報収集、情報処理) (5)医療面接			講義 及び 演習	専任教員 (安井真奈美)	
5 6	歯科衛生診断と計画立案	(1)歯科衛生診断（問題の明確化） (2)歯科衛生計画立案 (3)歯科衛生介入（歯科衛生計画の実施）					
7	歯科衛生評価 書面化	(1)歯科衛生評価 (プロセスと結果の評価) (2)書面化（業務記録） POS・SOAP					
8	試験（1時間）	(1)筆記試験			試験		
評価方法		筆記試験					
教科書・参考文献		歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版（医歯薬出版）					
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の実務経験		①歯科衛生士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。					

授業科目	歯科保存修復学	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	1年次 9月～12月
			①小川 真奈	時間数	30		
目的と目標	歯質破壊の進行抑制、および歯質欠損、発育異常や変色などを生じた歯に対する歯冠の形態、機能、審美性の回復・補正を行い、継発疾患の予防と咀嚼器官の保全をはかることを学習し、歯科衛生士業務の中でその知識を活かす能力を養う。 1 歯の保存療法と硬組織疾患について理解する 2 保存修復治療の種類と特徴について理解する 3 保存修復治療における歯科衛生士の役割について理解する						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	歯の保存療法の種類	(1)歯の保存療法と歯科保存学 (2)対象となる疾患		講義	外部講師 (小川真奈)		
2	口腔診査	(1)口腔検査の基礎知識と前準備 (2)医療面接 (3)現症の検査					
3	保存修復の概要	(1)窩洞と保存修復治療・概要・準備					
4		(2)歯の切削、窩洞形成、歯髄の保護					
5	直接法修復	(1)コンポジットレジン修復					
～		(2)セメント修復					
8							
9	間接法修復	(1)インレーおよびアンレー修復					
～		(2)ベニア修復					
12		(3)合着材および接着材					
13	保存修復における歯科衛生士の役割	(1)検査、診断時の業務					
14		(2)保存修復時の診療補助業務					
		(3)器材、薬剤の保管・管理					
		(4)保存修復時の共同動作					
15	まとめ（1時間）	(1)歯科保存修復学のまとめ					
	試験（1時間）	(2)筆記試験					
評価方法		筆記試験					
教科書・参考文献		歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学（医歯薬出版）					
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の実務経験		①歯科医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。					

授業科目	歯内療法学	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	1 年次 12 月～3 月
			①北村 浩之	時間数	30		
目的と目標	歯の硬組織の病気ならびに歯髄・根尖（端）歯周組織の病気を理解し、その治療法と予防法を学習し、歯科衛生士業務の中でその知識を活かす能力を養う。 1 歯内療法学の目的と対象疾患について理解する 2 歯内療法の種類と特徴について理解する 3 歯内療法における歯科衛生士の役割について理解する						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	歯内療法学の概要	(1)歯内疾患の概要と原因			講義	外部講師 (北村浩之)	
2		(2)歯髄疾患、根尖性歯周組織疾患の分類と症状、処置					
3	歯髄保存療法	(1)歯髄鎮痛消炎療法と歯髄鎮痛消炎薬					
4		(2)覆髄法					
5	歯髄の除去療法	(1)歯髄切断法、抜髄法					
6							
7	根管治療、根管充填	(1)根管治療・根管充填の基本概念、術式					
8		(2)根未完成歯の根管処置					
9	外科的歯内療法	(1)膿瘍切開法					
10		(2)根尖搔爬法、根尖切除法、歯根切断法					
		(3)歯根分離法、ヘミセクション					
		(4)歯の再植法、移植法					
11	歯の外傷	(1)歯の外傷の概要、分類と処置					
		(2)歯の保存液を用いた歯の保存法					
12	歯内療法における安全対策	(1)器具の根管破折					
		(2)根管壁の穿孔、皮下気腫					
		(3)器具の誤嚥、気管内吸引					
		(4)皮膚・衣服汚染の対処法					
13	歯科衛生士の役割	(1)検査・診断時の業務					
14		(2)歯内療法時の診療補助業務					
		(3)器具・器材の管理					
15	歯のホワイトニング	(1)各種ブリーチ法の特徴と手順					
	訪問歯科診療	(1)高齢者の在宅での歯内療法					
	試験（1時間）	(1)筆記試験			試験		
評価方法		筆記試験					
教科書・参考文献		歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学（医歯薬出版）					
事前準備や受講要件等							
☆担当職員の実務経験		①歯科医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。					

授業科目	歯周療法学	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	1年次 11月～12月
			①阿座上 遼子	時間数	15		
目的と	歯周組織の構造と機能・歯周疾患の病態と治療法について理解する。 1 歯周組織の構造と機能について理解する 2 歯周疾患の病態と治療法について理解する						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	歯周治療とは	(1)歯周疾患の現状と治療 (2)歯科衛生業務と歯周治療		講義	外部講師 (阿座上遼子)		
	正常な歯周組織の構造と機能	(1)歯周組織、咬合、審美性 (2)歯周組織の加齢変化 (3)インプラント歯周組織の特徴					
2	歯周病の分類と原因	(1)歯周病の分類、原因 (2)ペリオドンタルメディシン					
3	歯周治療の進め方	(1)歯周病の予防と歯周治療の基本 (2)歯周治療の進め方					
	歯周病の検査	(1)一般診査、歯周病検査、咬合診査 (2)画像診断、その他の診査					
4 ～ 7	歯周基本治療 歯周外科治療	(1)歯周基本治療の目的・効果・内容 (1)歯周外科治療の目的と分類 (2)歯周外科治療後の治癒形態 (3)歯周外科治療に用いる器材 (4)種々の歯周外科治療					
	歯周治療としての口腔機能回復	(1)口腔機能回復治療とは (2)咬合調整 (3)歯周一矯正治療 (4)歯の固定法 (5)歯科用インプラントによる治療					
8	試験（1時間）	(1)筆記試験		試験			
評価方法		筆記試験					
教科書・参考文献		歯科衛生学シリーズ 歯周病学 第2版（医歯薬出版）					
事前準備や 受講条件等							
☆担当職員の 実務経験		①歯科医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。					

授業科目	歯科補綴学	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	1年次 1月～3月
			①坂井 宏康	時間数	30		
目的と目標	歯科衛生業務を行うために必要な歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部、あるいは全部欠損に対する咬合回復の治療法を理解する。 1 歯の欠損に伴う口腔内の変化と身体的障害、心理的障害の関連性について理解する 2 補綴歯科治療の意義と目的を理解する 3 補綴歯科治療における歯科衛生士の役割について理解する						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 ～ 4	基礎知識	(1)歯科補綴の概要 (2)補綴歯科治療の基礎知識 (3)歯の欠損に伴う障害と補綴歯科治療 (4)補綴装置の種類とその構造			講義	外部講師 (坂井宏康)	
5 ～ 10	補綴歯科治療の実際	(1)補綴歯科治療における検査・診断 (2)クラウン・ブリッジ治療の実際 (3)有床義歯治療の実際 (4)インプラント治療の実際 (5)補綴歯科治療に用いられる器材 (6)補綴歯科治療における歯科技工					
11 ～ 14	補綴歯科治療における歯科衛生士の役割	(1)検査・診断時の業務 (2)治療時の業務 (3)患者指導 (4)器材の管理			試験		
15	まとめ（1時間） 試験（1時間）	(1)歯科補綴学のまとめ (2)筆記試験					
評価方法	筆記試験						
教科書・参考文献	歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学 (医歯薬出版)						
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の実務経験	①歯科医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	歯科矯正学	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	2年次 4月～5月
			①萬 建一	時間数	15		
目的と目標	歯科衛生業務を行うために必要な不正咬合の診断および治療法を理解する。 1 歯、歯列、咬合の役割と全身との関係を説明できる 2 不正咬合の種類、原因、障害を把握し、矯正治療の目的を説明できる 3 矯正治療に用いる器具・器材とその取り扱いについて説明できる						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 ～ 4	矯正歯科治療に関する基礎知識	(1)矯正歯科治療の概要 (2)成長・発育 (3)正常咬合と不正咬合 (4)矯正歯科診断 (5)矯正歯科治療と“力” 矯正力・顎整形力・保定 (6)矯正装置			講義	外部講師 (萬建一)	
5 ～ 6	矯正歯科治療の実際	(1)上下顎の前後的關係の不調和 (2)上下顎の垂直的關係の不調和 (3)成人矯正 (4)口腔顎顔面の形成異常と変形 (5)歯の埋伏と歯数の異常 (6)矯正歯科治療時のトラブルへの対応 (7)健康保険が適用される矯正歯科治療					
7	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割	(1)矯正歯科診断にかかわる業務 (2)矯正歯科診療時の業務 (3)矯正歯科患者と口腔保健管理 (4)口腔筋機能療法 (5)器材、資料、文書の管理					
8	試験（1時間）	(1)筆記試験			試験		
評価方法	筆記試験						
教科書・参考文献	歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 第2版 (医歯薬出版)						
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の 実務経験	①歯科医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	口腔外科学 I	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	1年次 9月～11月
			①山田陽一	時間数	15		
目的と目標	歯科衛生士業務を行うために必要な口腔・顎顔面領域の疾患の特徴と症状を理解する。 1 顎・口腔領域に生じる各種疾患を分類できる 2 先天異常（口唇・口蓋裂など）と発育異常（顎変形症など）の症状を理解できる 3 各種口腔疾患の種類と症状および治療法を概説できる						
回数	学習課題	内 容			方法	担当教員	
1	顎口腔領域の疾患	(1)口腔外科の概要			講義	外部講師 (山田陽一)	
2		(2)先天異常と発育異常					
3		(3)損傷					
4		(4)口腔粘膜疾患					
5		(5)炎症					
6		(6)嚢胞					
7		(7)腫瘍および腫瘍類似疾患					
8	試験（1時間）	(1)筆記試験			試験		
評価方法		筆記試験					
教科書・参考文献		歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第2版（医歯薬出版）					
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の実務経験		①②歯科医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。					

授業科目	口腔外科学Ⅱ	担当教員	外部講師☆ ① 平島寛司	単位数	1	時期	1年次 10月～3月
				時間数	30		
目的と目標	歯科衛生士業務を行うために必要な口腔・顎顔面領域の疾患の特徴と病態、診断法および治療法を理解する。 1 各種口腔疾患の種類と症状および治療法を概説できる 2 口腔外科診療の実際を理解できる 3 麻酔における全身管理、各種麻酔法・鎮静法を理解できる 2 周術期における口腔健康管理を理解できる						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1 ～ 3	顎口腔領域の疾患	(1)顎関節疾患 (2)唾液腺疾患 (3)神経系疾患 (4)血液疾患 (5)口腔心身症		講義	外部講師 (平島寛司)		
4 ～ 9	口腔外科診療の実際	(1)診察と診断 (2)歯科診療で問題となる全身疾患 (3)口腔外科手術の準備 (4)手術の基本手技 (5)口腔外科小手術					
10 ～ 12	歯科治療と麻酔	(1)歯科麻酔学と患者管理 (2)局所麻酔 (3)精神鎮静法 (4)全身麻酔 (5)緊急時の対応					
13 14	歯科衛生士が担う周術期の口腔健康管理	(1)周術期における口腔健康管理(総論) (2)周術期における口腔健康管理の実際		試験			
15	まとめ(1時間) 試験(1時間)	(1)口腔外科学Ⅱのまとめ (2)筆記試験					
評価方法		筆記試験					
教科書・参考文献		歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第2版(医歯薬出版)					
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の 実務経験		①歯科医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。					

授業科目	小児歯科学	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	2年次 6月～9月
			① 塚本 聡	時間数	30		
目的と目標	歯科衛生士業務を行うために必要な小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科治療を理解し、顎・顔面の成長発育とその障害を説明できる。 1 小児の身体的成長発育・心理的発達を理解できる 2 成人歯科と小児歯科の違いを理解する 3 小児歯科診療における歯科衛生士の役割について理解する						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1 ～ 4	小児歯科診療の基礎知識	(1)小児歯科学概論 (2)心身の発育 (3)小児の生理的特徴 (4)顔面頭蓋の発育 (5)歯の発育とその異常 (6)歯列・咬合の発育と異常 (7)小児の歯科疾患		講義	外部講師 (塚本 聡)		
5 ～ 10	小児歯科診療	(1)小児期の特徴と歯科的問題点 (2)小児歯科における診療体系 (3)小児歯科における患者との対応法 (4)小児虐待 (5)障害児の歯科治療					
11 ～ 14	小児歯科診療における歯科衛生士の役割	(1)診察・検査時の業務 (2)齲蝕予防 (3)小児歯科診療における診療補助 (4)小児の口腔保健管理 (5)歯科診療室と器材の管理					
15	まとめ（1時間） 試験（1時間）	(1)小児歯科学のまとめ (2)筆記試験		試験			
評価方法		筆記試験					
教科書・参考文献		歯科衛生学シリーズ 小児歯科学 （医歯薬出版） 歯科衛生士講座 障害者歯科学 第3版（永末書店）					
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の 実務経験		①歯科医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。					

授業科目	歯科放射線学	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	2年次 11月～12月
			①安部 佐織	時間数	15		
目的と目標	放射線の基礎知識を理解し、撮影の補助ができるようにする。 1 放射線の生物学的影響を理解し、放射線防護を概説できる 2 歯科におけるエックス線検査の種類とその特徴について理解できる 3 う蝕、歯周病及び顎骨に生じる病変のエックス線所見を概説できる 4 エックス線写真撮影における歯科衛生士の役割について理解できる						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 2	歯科医療と放射線 エックス線画像の形成 歯科におけるエックス線検査 口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 写真処理と画像保管の実際 放射線治療と口腔管理	(1)エックス線写真と画像診断 (2)放射線とその性質 (3)放射線の人体への影響と防護 (1)エックス線と画像の形成 (2)エックス線フィルムと増感紙 (3)デジタル画像系 (1)口内法エックス線撮影 (2)パノラマエックス線撮影 (3)頭部エックス線規格撮影 (4)その他の画像検査法 (1)配慮が必要な患者のエックス線撮影 (2)感染予防 (1)パノラマエックス線撮影の準備 (2)パノラマエックス線写真のみかた (1)品質保証計画の実施 (2)医療機器の保守・点検 (1)放射線治療 (2)放射線治療による副作用（有害事象） (3)放射線治療患者の口腔管理			講義	外部講師 (安部佐織)	
3 ～ 6	相互実習	(1)口内法エックス線撮影の準備 (2)フィルムとヘッドの位置づけ (3)患者の誘導と位置づけ (4)口内法エックス線写真のみかた (5)エックス線写真の整理・観察・保管			実習		
7	まとめ	(1)歯科放射線学のまとめ					
8	試験（1時間）	(1)筆記試験			試験		
評価方法		筆記試験					
教科書・参考文献		歯科衛生学シリーズ 歯科放射線学 第2版（医歯薬出版）					
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の 実務経験		①歯科医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。					

授 業 科 目	障害者・高齢者歯科学	担 当 教 員	外部講師☆	単位数	1	時 期	2 年次 6 月～9 月
			①棚橋 幹基 ②三輪 俊太	時間数	30		
目 的 と 目 標	<p>歯科衛生業務を行うために必要な高齢者および障害者（児）の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。</p> <p>1 障害の種類と歯科的特徴を理解し、歯科衛生士としてどのように対応したらよいのか、歯科治療時の診療補助はどのようにしたらよいのか、また口腔保健管理の内容を学ぶ</p> <p>2 高齢者に多くみられる疾患と口腔領域にみられる疾患を理解し、高齢者の歯科診療における歯科衛生士の役割について学ぶ</p>						
回 数	学 習 課 題	内 容			方 法	担 当 教 員	
1 2 3 4 5 6 7	障害者歯科	(1)障害と社会福祉 (2)地域医療と障害者歯科 (3)歯科衛生士と障害者歯科学 (4)障害の分類と歯科的特徴 (5)障害者歯科の診療補助 (6)歯科衛生士と医療安全 (7)行動調整とコミュニケーションの確立 (8)障害者の歯科保健指導と管理 (9)障害者への機能訓練（摂食・嚥下） (10)障害者歯科の予防処置 (11)医療連携と福祉との連携			講義	外部講師 (棚橋幹基)	
8 9 10 11 12 13 14	高齢者歯科	(1)高齢者をとりまく社会 (2)加齢の科学 (3)高齢者における口腔領域の疾患 (4)全身状態の把握と対応 (5)高齢者歯科医療の場 (6)口腔衛生管理 (7)摂食・嚥下障害とリハビリテーション (8)介護保険における歯科衛生士の役割				外部講師 (三輪俊太)	
15	まとめ（1時間） 試験（1時間）	(1)障害者・高齢者歯科学のまとめ (2)筆記試験			試験		
評価方法		筆記試験（棚橋講師 50 点、三輪講師 50 点）					
教科書・参考文献		歯科衛生士講座 障害者歯科学 第3版（永末書店） 歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学（医歯薬出版） 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第3版（医歯薬出版）					
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の 実務経験		①②歯科医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。					

授業科目	歯科予防処置基礎	担当教員	専任教員☆ ①福田典子	単位数	2	時期	1年次 7月～3月
				時間数	60		
目的と目標	歯科予防処置の概念を理解し、原理・原則に基づいたインスツルメントの基本操作を習得する。 1 歯科予防処置の概念と内容について理解する 2 各種スケーラーの基礎知識を理解し、マネキンを使ったスケーリングの部位別操作法を習得する 3 各種スケーラーのシャープニング法を習得する 4 口腔内消毒における基礎知識と操作方法を習得する 5 歯周基本検査における基礎知識と操作方法を習得する 6 学生相互の実習を通して術者、患者の立場を理解することができる						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	基礎知識	(1)歯科予防処置の概念 (2)口腔・う蝕・歯周病の基礎知識			講義 GW	専任教員 (福田典子)	
2	技術習得における基礎知識 探針操作	(1)術者のポジション、患者設定、ミラー操作			講義 実習		
3		(1)探針操作の基礎知識					
4	シックルスケーラーの操作 ～	(2)実技練習			講義 実習		
5		(1)シックルスケーラーの基礎知識					
12		(2)実技練習、実技確認 (マネキン実習) ①上下顎前歯部 ②上下顎臼歯部					
13	キュレットスケーラーの 操作 ～	(3)シックルスケーラーのシャープニング			講義 実習		
18		(1)キュレットスケーラーの基礎知識 (2)実技練習、確認 (マネキン実習) ①上下顎前歯部 ②上下顎臼歯部					
19	口腔内消毒 ～	(3)キュレットスケーラーのシャープニング			講義 実習		
21		(1)歯科用ピンセットの取り扱い					
22		(2)綿球による口腔内消毒					
29	歯周基本検査とは ～	(3)実技練習 (相互実習)			講義 実習		
30		(1)歯周基本検査とは (2)実技練習、実技確認 (相互実習)					
30	まとめ (1時間) 試験 (1時間)	(1)歯科予防処置基礎のまとめ (2)筆記試験			試験		
評価方法		筆記試験					
教科書・参考文献		歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 (医歯薬出版)					
事前準備や 受講要件等		基本診査器具、手用スケーラー、マネキンの準備					
☆担当職員の実務経験		①歯科衛生士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。					

授業科目	歯周病予防処置 I	担当教員	専任教員☆ ①福田典子	単位数	2	時期	2年次 6月～3月
				時間数	60		
目的と目標	<p>学生相互の実習を通じて、原理・原則に基づいた安心・安全な操作を実践できる能力を養う。</p> <p>1 歯面研磨の基礎知識を理解し、基本的な操作方法を習得する</p> <p>2 手用スケーラーにおける口腔内での安心・安全な操作を習得する</p> <p>3 パワースケーラーの基本知識を理解し、口腔内での安心・安全な操作を習得する</p> <p>4 学生相互の実習を通して術者、患者の立場を理解することができる</p> <p>5 口腔内の状態を観察し、その状態にあった歯科衛生過程の計画・立案を習得する</p>						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1 ～ 3 4 ～ 9 10 ～ 23	歯面研磨 手用スケーラーの操作 パワースケーラーの取り扱い	(1)歯面研磨の基礎知識 (2)実技練習、実技確認（相互実習） (1)実技練習（相互実習） ①シックル型スケーラー ②キュレット型スケーラー (1)パワースケーラーの基礎知識 ①超音波スケーラー ②エアスケーラー (2)実技練習、実技確認（相互実習）		講義 実習 実習 講義 実習	専任教員 (福田典子)		
24 ～ 29	歯科衛生過程 計画・立案	(1)口腔内からの情報収集 (2)歯科衛生計画立案		実習 GW			
30	まとめ（1時間） 試験（1時間）	(1)歯周病予防処置 I のまとめ (2)筆記試験		試験			
評価方法		筆記試験					
教科書・参考文献		歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版（医歯薬出版）					
事前準備や 受講要件等		基本診査器具、手用スケーラー					
☆担当職員の 実務経験		①歯科衛生士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。					

授業科目	歯周病予防処置Ⅱ	担当教員	専任教員☆ ①福田典子	単位数	2	時期	3年次 4月～5月
				時間数	60		
目的と目標	<p>対象者のニーズに応えるための技術を習得する。</p> <p>1 1人バキュームにおけるスケーリング操作を実践する</p> <p>2 PMTCの基礎知識を理解し、基本的な操作方法を実践する</p> <p>3 口腔内の状態を観察し、その状態にあった歯科衛生過程の計画・立案を習得する</p> <p>4 歯の漂白における基礎知識を理解する</p> <p>5 歯面清掃器における基礎知識を理解する</p> <p>6 臨床実習にむけて自身の課題を明確にし、技術習得に努める</p> <p>7 学生相互の実習で術者、患者、補助者を経験しそれぞれの立場の技術や心構えを学ぶ</p>						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 ～ 4 5 ～ 9 10 ～ 15 16 17 18 ～ 29 30	1人バキュームでの スケーリング PMTC メンテナンス 歯科衛生過程の実際 歯の漂白 歯面清掃器 臨床実習に向けて まとめ（1時間） 試験（1時間）	(1)実技練習（相互実習） ①バキューム（曲） ②バキューム（直） (1)PMTCの基礎知識 (2)実技練習（相互実習） (1)実技練習 (2)歯科衛生過程の計画・立案 (1)歯の漂白における基礎知識 (1)歯面清掃器における基礎知識 (2)器械の取り扱い (1)相互実習 ①手用スケーラーの取り扱い ②パワースケーラーの取り扱い ③歯周基本検査 ④PMTC (1)歯周病予防処置Ⅱのまとめ (2)筆記試験			実習 講義 実習 実習 講義 講義 実習 実習 試験	専任教員 (福田典子)	
評価方法	筆記試験						
教科書・参考文献	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版（医歯薬出版）						
事前準備や 受講要件等	基本診査器具、手用スケーラー						
☆担当職員の実務経験	①歯科衛生士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	歯周病予防処置 III	担当教員	外部講師☆ ①小瀬木多津子 ②加藤有璃子	単位数	1	時期	3年次 4月～7月
			専任教員☆ ③安井真奈美 ④福田典子	時間数	30		
目的と目標	歯科衛生過程の計画・立案に基づいたメンテナンスの実践能力を養う。 1 口腔内の状態を観察し、その状態にあった歯科衛生過程の計画・立案・介入を実践する 2 歯科衛生過程の実際を通して、歯科衛生士としての自覚を持つ 3 臨床現場で行われている歯周病治療の実際を理解し、現場で求められる基本的知識・技術・心構えを学ぶ 4 多職種連携・協働に必要なスキル活用の実際を理解できる						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1 ～ 6	1・2・3年生合同実習	(1)情報収集 (2)情報整理、計画立案 (3)自身が考案した歯科衛生計画の介入 (4)評価		実習	専任教員 (福田典子)		
7 8	歯周病治療の実際	(1)歯周病治療の症例 (2)歯周外科治療 (3)歯周病治療終了後のメンテナンス		講義	外部講師 (三輪歯科医院職員) (一ツ星歯科醫院職員)		
9 ～ 15	多職種連携	(1)第二看護学科との合同授業 ①チームにおけるコミュニケーションの実際 ②事例検討 (2)多治見看護専門学校との合同授業 ①事例検討		実習	専任教員 (安井真奈美)		
評価方法	1～6：成果物 30 点、7：レポート 10 点、8：レポート 10 点、9～15：レポート 50 点 *再試験の場合、レポート 100 点分で評価する						
教科書・参考文献							
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の 実務経験	①歯科衛生士として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。 ②歯科衛生士として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。 ③歯科衛生士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	う蝕予防処置	担当教員	外部講師☆ ①石黒幸司 専任教員☆ ②大曲淳子	単位数	1	時期	2年次 4月～7月
				時間数	30		
目標	う蝕予防のための専門的な知識、技術を習得する。 1 う蝕予防処置の概念と臨床的効果を説明できる 2 う蝕予防処置で使用する薬剤、材料の基礎知識と取り扱い法を習得する						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	う蝕予防処置とは	(1)う蝕予防処置法とは			講義 及び 実習	外部講師 (石黒幸司)	
2	う蝕の知識	(1)歯およびエナメル質表層の知識 (2)う蝕とは (3)オッズ比の復習					
3	歯をとりまく環境	(1)唾液の知識、ステファンカーブ (2)プラークの成り立ちとう蝕					
4	小窩裂溝填塞法	(1)小窩裂溝填塞とは					
5	う蝕活動性試験	(1)う蝕活動性試験とは					
6		(2)各種試験について 実習					
7	フッ化物応用の知識	(1)フッ化物応用の知識					
～		(2)フッ化物歯面塗布法					
9		(3)悪心嘔吐発現量計算 (4)サホライド (5)フッ化物洗口 実習					
10	まとめ	(1)歯磨剤作製 実習 (2)まとめ					
11	フッ化物応用の復習	(1)フッ化物応用の知識 復習 (2)フッ化物の計算 演習問題			講義 及び 実習	専任教員 (大曲淳子)	
12	小窩裂溝填塞法	(1)相互実習					
13	フッ化物歯面塗布法	(1)相互実習					
14	カリエスリスクの情報収集と評価	(1)カリエスリスクテストの復習 (2)レーダーチャートの作製 (3)カリエスリスクテストの活用					
15	試験 (1時間)	(1)筆記試験					
評価方法		筆記試験 (石黒講師 70点、専任教員 30点)					
教科書・参考文献		歯科衛生士のための齶蝕予防処置法 第2版 (医歯薬出版)					
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の 実務経験		①歯科医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。 ②歯科衛生士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。					

授業科目	歯科保健指導基礎	担当教員	専任教員☆ ①大曲淳子	単位数	1	時期	1年次 6月～9月
				時間数	30		
目標	口腔衛生管理を行うために必要な基本的な知識、技術を習得する。 1 歯科保健指導の意義と目的について理解を深める 2 口腔清掃に用いられる用具、材料などについての専門的な理解を深める						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 2 3 ～ 6 7 8 9 10 11 ～ 14	歯科保健指導論の考え方 口腔清掃方法	(1)歯科保健指導の定義 (2)健康と予防の概念 (1)歯ブラシの知識 (2)ブラッシング方法 (3)補助清掃用具の知識 (4)補助清掃具の使用法 (5)その他の清掃用具の知識 (6)歯磨剤・洗口剤の知識 (7)歯磨剤・洗口剤の使用法 (8)歯垢染色剤の知識 (9)歯垢染色剤の使用法 (10)染め出し実習			講義 及び 演習	専任教員 (大曲淳子)	
15	まとめ（1時間） 試験（1時間）	(1)歯科保健指導基礎のまとめ (2)筆記試験			試験		
評価方法	筆記試験						
教科書・参考文献	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学（医歯薬出版）						
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の 実務経験	①歯科衛生士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	歯科保健指導 I	担当教員	外部講師☆ ①合掌かおり	単位数	1	時期	1年次 10月～3月
			専任教員☆ ②大曲淳子	時間数	30		
目的と目標	歯科保健指導の遂行に必要な情報収集及び、健康状態の観察について理解する。 1 口腔内の観察方法や口腔内の分析のための指数について理解を深め、診査を実施する 2 個人を対象として、その人の生活行動をその人に適した歯科保健行動に変容させるための専門的な立場からの助言と援助技術を習得する						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 2 3 ～ 6	口腔内の情報収集 分析のためのデータ	(1)口腔内の観察方法 (2)検査方法 (1)指数 (2)プラーク・歯石の指数 (3)歯周疾患の指数 (4)その他の指数			講義 及び 実習	専任教員 (大曲淳子)	
7 ～ 10	口腔衛生指導計画	(1)相互実習 ・口腔内の情報収集 ・口腔衛生状態の把握 (2)口腔衛生指導の立案・実施					
11 ～ 14	行動変容の要素とそのステップ	(1)歯科専門知識の習得 (2)行動変容に関する理論 (3)行動変容を促す理論の実践 (4)情報収集の方法				外部講師 (合掌かおり)	
15	まとめ（1時間） 試験（1時間）	(1)歯科保健指導 I のまとめ (2)筆記試験			試験	専任教員 (大曲淳子)	
評価方法	筆記試験（合掌講師 20 点 専任教員 80 点）						
教科書・参考文献	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版（医歯薬出版）						
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の実務経験	①歯科衛生士として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。 ②歯科衛生士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	歯科保健指導Ⅱ	担当教員	外部講師☆ ①合掌かおり	単位数	1	時期	2年次 5月～7月
			専任教員☆ ②大曲淳子	時間数	30		
目的と目標	対象者別の指導方法を理解する。 1 ライフステージの一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を理解する 2 対象者のニーズにあった支援をするために、論理的に思考し、問題発見および解決できる知識、技術を習得する						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	食生活指導の基礎	(1)食生活および食習慣 (2)食品とう蝕誘発性 (3)咀嚼と食品			講義 及び 演習	専任教員 (大曲淳子)	
2	喫煙者に対する歯科保健指導	(1)喫煙状況のアセスメント (2)禁煙支援(サポート)のポイント					
3 ～ 14	ライフステージ別歯科保健指導	(1)妊産婦期 (2)新生児・乳児期 (3)幼児期 (4)学齢期 (5)青年期・成人期 (6)老年期 (7)要介護高齢者			試験	非常講師 (合掌かおり) 専任教員 (大曲淳子) 外部講師 (合掌かおり)	
15	試験(1時間)	(1)筆記試験				専任教員 (大曲淳子)	
評価方法	筆記試験(合掌講師 35点 専任教員 65点)						
教科書・参考文献	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 (医歯薬出版) チェアサイド オーラルフレイルの診かた 第2版 (医歯薬出版)						
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の 実務経験	①歯科衛生士として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。 ②歯科衛生士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	歯科保健指導Ⅲ	担当教員	外部講師☆ ①萩谷勲信 ②合掌かおり	単位数	1	時期	2年次 6月～3月
			専任教員☆ ③安井真奈美 ④大曲淳子	時間数	30		
目的と目標	対象者別の口腔衛生管理、口腔機能管理について理解する。 1 他職種の役割を理解し、地域包括ケアシステムにおいて歯科専門職に必要な基本的知識を習得する 2 高齢者及び全身疾患を抱えた対象者へケアを実践するための知識と技術を習得する 3 虐待と歯科医療について基本的知識を習得する 4 周術期における口腔衛生管理について基本的知識を習得する 5 学齢期における口腔衛生管理について基本的知識を習得する						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1 ～ 3	地域包括ケアシステム	(1)病院における口腔衛生管理 (2)介護保健施設における 歯科の役割 (3)地域医療活動における 歯科の役割と展望 (4)訪問歯科診療の実際と社会的背景 (5)保健・医療・福祉チームとの連携 (6)口腔疾患状況・口腔衛生(清掃)状態の評価 (7)口腔運動機能・咀嚼機能・嚥下機能の評価 (8)障害児者の支援		講義	外部講師 (萩谷勲信) 専任教員 (安井真奈美) 外部講師 (合掌かおり)		
4 ～ 6	高齢者への専門的口腔ケア	(1)基礎知識・口腔ケアプラン作成 (2)口腔機能訓練・摂食嚥下訓練 (3)ケア技術 (4)臨地実習における口腔ケア手順		講義 及び 実習	外部講師 (合掌かおり) 専任教員 (大曲淳子)		
7 8	周術期の口腔ケア	(1)周術期における口腔衛生管理について (2)がんの放射線療法・化学療法による 口腔粘膜炎の予防と対応方法		講義	専任教員 (安井真奈美)		
9 10	虐待について	(1)虐待について (2)虐待と歯科保健について (3)歯科的特徴と対応					
11 ～ 14	学齢期	(1)学齢期における口腔衛生管理					
15	まとめ(1時間) 試験(1時間)	(1)歯科保健指導Ⅲのまとめ (2)筆記試験		試験			
評価方法	筆記試験(萩谷講師 20点 合掌講師 10点 専任教員 40点) レポート 30点 ※学齢期口腔衛生管理 *再試験の場合、筆記試験 100点分で評価する						
教科書・参考文献	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版(医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学(医歯薬出版)						
事前準備や受講要件等							
☆担当職員の 実務経験	①歯科医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。 ②歯科衛生士として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。 ③④歯科衛生士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	歯科保健指導Ⅳ	担当教員	外部講師☆ ①合掌かおり ②三原雅子 ③安田和代 ④石川明奈	単位数	1	時期	3年次 4月～6月
			時間数	30			
目的と目標	<p>チーム医療連携の方法や歯科における地域支援の現状を学び、歯科衛生士としての役割を理解する。</p> <p>1 各ライフステージと機能障害に応じた食生活指導や口腔機能管理を行うため、専門的知識や技術を学ぶ</p> <p>2 チーム医療における歯科医療の必要性を理解する</p>						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	地域におけるチーム医療	(1)在宅医療について		講義 及び 演習	外部講師 (三原雅子)		
2		(2)在宅医療における各職業の役割					
3		(3)多職種連携					
4	フレイルとサルコペニア	(1)加齢と全身の機能低下		外部講師 (合掌かおり)			
5		(2)加齢・疾患による口腔機能の変化					
6	口腔機能の評価	(1)咀嚼機能の評価法		外部講師 (合掌かおり)			
7		(2)口腔機能精密検査法					
8	摂食嚥下機能の評価	(1)摂食嚥下機能スクリーニング法		外部講師 (石川明奈)			
9		(2)栄養状態の評価					
10		(3)食形態の評価 (経腸栄養含む)					
11	食生活指導	(1)摂食嚥下機能に応じた調理の工夫		講義 及び 実習	外部講師 (合掌・石川・安田・三原)		
12		(2)障がいのある人の食事介助法等					
13	歯科における食支援の実際	(1)食支援のためのアセスメント、問題抽出、介入計画案		講義 及び 演習	外部講師 (合掌かおり)		
14		(2)他職種との連携					
15	まとめ (1時間) 試験 (1時間)	(1)歯科保健指導Ⅳのまとめ (2)筆記試験		試験	外部講師 (合掌・安田)		
評価方法		筆記試験					
教科書・参考文献		チェアサイド オーラルフレイルの診かた 第2版 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 (医歯薬出版) 歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション 第3版 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能3 栄養学 (医歯薬出版)					
事前準備や受講要件等							
☆担当職員の実務経験		①歯科衛生士として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。 ②看護師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。 ③管理栄養士として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。 ④言語聴覚士として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。					

授業科目	歯科健康教育 I	担当教員	外部講師☆ ①立木 美穂 ②河村 二郎 ③久保 勝俊 ④朝川 世津子 ⑤奥村 美雪 ⑥山田 りつ子	単位数	1	時期	2年次 4月～12月
			専任教員☆ ⑦安井 真奈美	時間数	30		
目的と目標	健康教育活動の場で指導するために、必要な専門知識、技術を習得する。 1 対象となる集団または個人に応じた媒体の活用法や健康教育の方法を習得する 2 障がい児（者）や高齢者の身体的・心理的特徴を把握し、口腔ケアの知識及び技法を習得する 3 災害時における歯科保健活動について基本的知識を習得する						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1 2	媒体について	(1)媒体とは (2)計画立案		講義	外部講師 (立木美穂)		
3 4	歯科医院の実際	(1)多様化する歯科医院			外部講師 (山田りつ子)		
5 ～ 1 2	災害歯科保健	(1)災害時の歯科の役割 (2)大規模災害時の保健医療対策 (3)被災地での歯科保健活動 (4)災害時の歯科衛生士の役割		試験	外部講師 (河村二郎) (久保勝俊) (奥村美雪)		
1 3 1 4	特別支援学校での保健教育	(1)障がい児者・高齢者の特徴及び対応方法 (2)障がい児者・高齢者への口腔ケア及び口腔管理について			外部講師 (朝川世津子)		
1 5	まとめ（1時間） 試験（1時間）	(1)歯科健康教育 I のまとめ (2)筆記試験			専任教員 (安井真奈美)		
評価方法	筆記試験（久保講師 40 点）提出物（立木講師 20 点） レポート（山田講師 10 点、河村講師 10 点、奥村講師 10 点、朝川講師 10 点） ＊再試験の場合、筆記試験 40 点分・レポート 60 点分（立木講師・河村講師・奥村講師・朝川講師・山田講師）で評価する						
教科書・参考文献	講師の提示する資料配布						
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の 実務経験	①④⑤⑥歯科衛生士として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。 ②③歯科医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。 ⑦歯科衛生士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	歯科健康教育Ⅱ	担当教員	外部講師☆ ①松原 充直 ②中寫 誠治 ③大堀 陽香	単位数	1	時期	3年次 4月～1月
			専任教員☆ ④岡田 多恵子 ⑤安井 真奈美 ⑥福田 典子	時間数	45		
目的と目標	健康教育活動や地域活動に必要な知識を習得し実践する。 1 歯科診療所における歯科衛生士の業務内容について理解を深める 2 地域における公衆衛生活動等に参加し、歯科における地域支援の現状を理解し、歯科衛生士としての役割について理解を深める 3 集団を対象とした歯科保健教育の基礎知識、技術を小学校等で実践する 4 妊産婦を対象とした歯科保健教育の基礎知識を習得する。 5 国及び県の歯科医療体制と今後の動向について基本的知識を習得する						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1 ～ 4 5 ～ 8 9 ～ 14	歯科診療所における業務 口腔機能向上事業 小学校における保健教育	(1)歯科診療所における歯科衛生士業務について (1)オリエンテーション (2)おいしく食べよう教室参加 (1)オリエンテーション (2)集団保健教育 (3)染め出し (4)個人の歯科保健教育		講義 校外学習 講義 演習	外部講師 (松原 充直) 外部講師 (中寫 誠治) 専任教員 (安井真奈美)		
15	妊産婦歯科保健について	(1)妊産婦への保健指導		講義	専任教員 (岩田真美)		
16	歯科医療の体制と動向	(1)国及び県の歯科医療体制と今後の動向について			外部講師 (大堀陽香)		
17 ～ 20 21 22	歯科衛生士と専門機関・職能団体との関わり 助産学科との合同実習	(1)歯科医学大会参加 (2)歯科衛生士学生会部会参加 (1)母親教室への参加 (2)歯科保健教育媒体のプレゼンテーション		校外学習 講義 演習	専任教員(安井) 外部講師 (奥村 美雪) 専任教員 (福田典子)		
23	試験 (1時間)	(1)筆記試験		試験	専任教員(安井)		
評価方法	5～8：レポート 20点、9～14：レポート 10点、 15・16：筆記試験 30点 (外部講師：15点、専任教員：15点)、 17～20：歯科医学大会レポート 20点、歯科衛生士学生会部会レポート 10点、 21・22：レポート 10点 *再試験の場合、筆記試験 30点分・レポート 70点分で評価する						
教科書・参考文献	講師の提示する資料配布						
☆担当職員の実務経験	①②歯科医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。 ③歯科医療従事者として行政機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。 ④助産師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ⑤⑥歯科衛生士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	歯科診療補助基礎	担当教員	専任教員☆ ①安井真奈美 ②福田典子 ③谷本英里	単位数	1	時期	1年次 5月～12月
				時間数	45		
目的と目標	専門的な歯科診療の補助のために必要な基礎的知識および態度を習得する。 1 歯科診療の補助・介助について理解する 2 歯科診療室の環境や設備について理解する 3 歯科診療における感染予防対策・医療安全を理解する 4 診療を行うために必要な準備について理解する 5 周術期等口腔健康管理の概要を理解する 6 診療室における緊急時の対応および救急処置を習得する						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	歯科診療補助とは	(1)歯科診療の補助・介助について		講義	専任教員 (谷本英里)		
2	歯科診療室の基礎知識	(1)歯科診療室の環境、構造及び設備 (2)基本セット					
3 ～ 8	感染予防対策	(1)標準予防策、手指衛生 (2)滅菌、消毒、洗浄 (3)医療廃棄物 (4)医療安全、リスクマネジメント					
9 ～ 18	診療の準備	(1)歯科用ユニットの取扱い (2)各滅菌器の取扱い (3)各薬品の取扱い (4)診療の準備、片付け		講義 実習	専任教員 (福田典子)		
19	周術期等口腔健康管理	(1)周術期等口腔健康管理とは		講義	専任教員 (安井真奈美)		
20 ～ 22	救命救急処置	(1)上級救命講習 現地受講		校外 学習	専任教員 (谷本英里)		
23	試験（1時間）	(1)筆記試験		試験			
評価方法	筆記試験						
参考文献と資料	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯科機器（医歯薬出版）						
事前準備や 受講要件等	上級救命講習の現地受講前に、e-ラーニングを受講すること						
☆担当職員の実務経験	①②③歯科衛生士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						

授業科目	歯科診療補助Ⅱ	担当教員	外部講師☆ ①高田良彦 ②杉浦石根 ③箕浦智之 ④野入愛子 ⑤今井茉佑 専任教員☆ ⑥安井真奈美⑦大曲淳子 ⑧澤田依実香	単位数	2	時 期	2年次 9月～3月
			時間数	90			
目的と目標	専門的な歯科診療補助のために必要な基礎的知識、技術および態度を習得する。 1 特別な配慮を必要とする患者対応について理解する 2 口腔機能管理とそれに伴って必要な検査機器等について基礎的知識を習得する 3 症例において、学習した知識の活用方法を習得する 4 自身が歯科衛生士として活躍し続けるために必要な知識および態度を習得する						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1 ～ 7	特別な配慮を要する患者対応	(1)障害者への一般的対応法 (2)小児への一般的対応法 (3)高齢者への歯科診療時の対応法 (4)妊婦・小児への歯科診療時の対応法		講義	外部講師（箕浦） 外部講師（野入） 専任教員（澤田）		
8 ～ 15	口腔機能管理	(1)口腔機能管理法 (2)嚙下内視鏡検査の見学 (3)口腔機能検査法 (4)口腔機能検査実習 (5)口腔機能訓練実習		講義 校外実習	外部講師（高田）		
16 ～ 32	症例検討	(1)要介護高齢者 (2)認知症高齢者 (3)障害者 (4)口腔機能低下症 (5)全身疾患有病者 (6)全身的偶発症		講義 及びGW	外部講師（杉浦） 専任教員（澤田） 専任教員（大曲）		
33・34 35 ～ 39	患者対応 自己の実現	(1)医療面接 (1)ストレスコーピング (2)キャリア形成 (3)海外で活躍する歯科衛生士		講義	専任教員（安井） 専任教員（澤田） 外部講師（今井）		
40 ～ 44	実習での学びの共有	(1)周術期の入院患者への対応 (2)他職種との連携・協働 (3)発表		講義 及び GW	専任教員（澤田）		
45	まとめ（1時間） 試 験（1時間）	(1)歯科診療補助Ⅱのまとめ (2)筆記試験		試験			
評価方法	筆記試験（専任教員 75 点） レポート（高田講師 5 点、杉浦講師 5 点、箕浦講師 5 点、野入講師 5 点、今井講師 5 点） ＊再試験の場合、筆記試験 100 点分で評価する						
教科書・参考文献	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版（医歯薬出版） 等						
事前準備や受講要件等							
☆担当職員の実務経験	①②歯科医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする ③社会福祉士として施設に勤務している経験を活かした授業展開をする ④幼稚園教諭として施設に勤務している経験を活かした授業展開をする ⑤歯科衛生士として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする ⑥⑦⑧歯科衛生士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						

科目 授業	歯科診療補助Ⅲ	担当教員	外部講師☆ ①酒向秀明 ②石原敬代 ③山田りつ子 専任教員☆ ④鷺見明香 ⑤福田典子 ⑥澤田依実香⑦谷本英里	単位数	2	時期	2年次 4月～1月
			時間数	90			
目的と目標	専門的な歯科診療補助のために必要な基礎的知識、技術および態度を習得する。 1 各治療における治療手順・器材及び患者対応を理解する 2 各治療における器材準備及び取扱いを習得する 3 合同実習において安全に配慮した診療の準備及びスムーズにアシスタントを行うための知識と技術を習得する 4 口腔内写真撮影とその活用における基礎的知識、技術を習得する 5 インプラントに関する基礎的知識を習得する						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1～5	1・2・3年生合同実習	(1)環境整備・アシスタント		実習	専任教員（福田）		
6 ～ 13	保存治療	(1)CR 修復 治療手順、器材準備及び取扱い、患者指導 (2)In 修復 治療手順、器材準備及び取扱い、患者指導 (3)隔壁		講義 及び 実習	専任教員（谷本）		
14 ～ 20	歯内治療	(1)麻酔抜髄 治療手順、器材準備及び取扱い、患者指導 (2)根管充填 治療手順、器材準備及び取扱い、患者指導 (3)ラバーダム防湿					
21 ～ 24	補綴治療	(1)FMC・Br による補綴処置 治療手順、使用器材、患者指導 (2)義歯による補綴処置 治療手順、使用器材、患者指導 (3)プロビジョナルストレーションの作製			専任教員（澤田）		
25 ～ 27	口腔外科治療	(1)局所麻酔、止血処置 器材・薬剤の準備と取扱い (2)普通抜歯・埋伏智歯抜歯・小手術 治療手順、器材準備及び取扱い、患者指導			専任教員（澤田）		
28 29	歯周外科治療 外科的歯内療法	(1)歯周外科治療の種類 (2)使用器材、用途、患者指導 (1)治療手順、使用器材 (2)患者指導					
30	矯正歯科治療	(1)矯正歯科治療における患者との関わり (2)口腔筋機能療法					
31～38	臨床実習に向けて	(1)各項目の復習 (2)スタディモデル作製					
39～42	口腔内の記録と活用	(1)口腔内写真撮影実習 (2)写真からの情報収集・分析		実習 講義 講義	専任教員（福田） 外部講師(山田) 外部講師 (酒向) (石原) 専任教員（澤田）		
43～44	インプラント治療の実際	(1)インプラント治療 (2)インプラントメンテナンス					
45	まとめ（1時間） 試験（1時間）	(1)歯科診療補助Ⅲのまとめ (2)筆記試験		試験			
評価方法		筆記試験（山田講師 10 点、専任教員 90 点）					
教科書・参考文献		歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版（医歯薬出版）等					
☆担当職員の実務経験		①歯科医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする ②③歯科衛生士として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする ④歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ⑤⑥⑦歯科衛生士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする					

授業科目	材料器械	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時 期	1年次 1月～3月			
			①林 達秀	時間数	15					
目的と目標	歯科材料の基本的性質、種類、用途を習得する。 1 歯科材料の所要性質、素材について理解する 2 診療室で日常的に使用する歯科材料の種類、性質、用途、取り扱い方法について理解する									
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員					
1 2	歯科材料と歯科衛生士 歯科材料の基礎知識	(1)歯科材料の所要性質、取り扱い (1)歯科材料の性質 (2)練和、接着 (3)歯科材料の取り扱い		講義	外部講師 (林 達秀)					
3 4	歯科衛生に関わる材料 印象材 模型用材料	(1)歯面研磨材、小窩裂溝填塞材 (1)印象材の用途、分類、種類、性質 (1)石膏の種類と用途、性質、取り扱い								
5 ～	合着材・接着材	(1)合着材の種類と用途、性質 (2)接着材の種類と用途、性質								
7	成形修復材 仮封材	(1)成形修復材の用途、性質 (1)仮封材の種類と用途、性質 (2)歯周パックの用途								
	暫間修復材と仮着用セメント	(1)暫間修復材の種類と用途、性質 (2)仮着用セメントの種類と用途、性質								
8	試験（1時間）	(1)筆記試験						試験		
評価方法	筆記試験									
教科書・参考文献	イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 第5版（永末書店）									
事前準備や 受講要件等										
☆担当職員の 実務経験	①歯科医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする									

授業科目	臨床検査法	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	2年次 6月～7月
			①安部 佐織	時間数	15		
目標	歯科医療に携わるにあたり、全身疾患を有した患者の病態を理解し、検査データの表す意味や正常値の理解は必要不可欠である。歯科衛生士として必要な臨床検査法を理解し、準備方法、検査法とその手技、検査データの読み方等を習得する。 1 各検査の意義と読み取れる情報について理解する 2 各検査データの正常値および読み取り方について習得する						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	臨床検査とは	(1)臨床検査の倫理と安全 (2)臨床検査はなぜ必要か (3)どんな検査があるのか (4)検査成績の読み方			講義	外部講師 (安部佐織)	
2	生体検査（生理機能検査）	(1)体温検査 (2)脈拍検査、血圧検査 (3)心機能検査、肺機能検査 (4)筋電図検査、脳派検査 等					
3	検体検査	(1)血液を用いる検査、感染症検査 (2)病理検査					
4 ～ 7	口腔領域の臨床検査	(1)口臭検査 (2)味覚検査 (3)歯科金属アレルギーの検査 (4)舌の検査、口腔粘膜の検査 (5)唾液検査 (6)歯周組織の検査、歯の検査 等					
	摂食・嚥下関連の検査	(1) 摂食・嚥下障害のスクリーニング テスト (2)摂食・嚥下障害の検査方法					
	まとめ	(1)グループワーク・発表 (2)臨床検査法のまとめ					
8	試験（1時間）	(1)筆記試験					
評価方法		筆記試験					
教科書・参考文献		歯科衛生学シリーズ 臨床検査（医歯薬出版）					
事前準備や 受講要件等							
☆担当職員の 実務経験		①歯科医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。					

授業科目	臨床実習 I	担当教員	臨床実習指導者	単位数	1	時期	1年次 6月、12月
				時間数	45		
目的と目標	<p>歯科衛生士の業務や歯科診療を実際に見ることにより、歯科衛生士としての知識や技術の習得に対する興味、関心を深めるとともに、医療人としての基本的な態度を身につける。</p>						
行動目標	<p>(1)歯科衛生士業務について理解する</p> <p>(2)歯科衛生士業務に興味・関心を深める</p> <p>(3)歯科医療を提供するための環境整備(準備・片づけ・感染対策)について理解する</p> <p>(4)歯科診療についての興味・関心を深める</p> <p>(5)歯科診療で使用する器具・器材・材料に対する興味・関心を深める</p> <p>(6)医療人としての基本的な態度、心構えについて理解する</p> <p>(7)医療人として体調管理、自己管理することの重要性を理解する</p>						
評価方法	<p>実習レポート、実習態度 ※詳細は、実習要綱参照</p>						
実習期間	<p>1年次・6月、12月</p>						
実習施設	<p>病院（歯科・歯科口腔外科）・ 歯科診療所</p>						

授業科目	臨床実習Ⅱ (歯科診療所)	担当教員	臨床実習指導者	単位数	3	時期	2年次 1月～3月
				時間数	135		
目的と目標	<p>歯科衛生士業務の見学、診療補助および介助を行うことにより、医療人としての自覚と専門的な知識・基礎技術を深め、実体験を通して理解する能力を養う。</p> <p>1 医療人としての基本姿勢：医療人としての人間性や倫理観、コミュニケーション能力を習得するために臨床における歯科衛生士の役割を理解し、医療人としての基本的姿勢を身につける</p> <p>2 医療現場での対応：①患者対応の技術を身につける ②チェアサイドでのアシスタントの業務を身につけるために共同動作の基本とルールを理解し、臨床手技を習得する ③歯科治療で使用する材料、薬品の性質を理解し、取り扱いを習得する ※特に保存・補綴・歯周・矯正・小児について理解する ④歯科診療所での口腔衛生管理について理解する</p> <p>3 安全管理：感染予防に対する知識を習得し、安全な医療が行える技術を身につける</p>						
行動目標	医療人としての基本姿勢	<p>(1)医療人としての倫理観を養う (2)患者やスタッフとコミュニケーションを図る (3)チームワークを図り、円滑に行動する (4)学生としての責任を認識し行動する (5)自身の行動を振り返り、自己の課題を明確にする (6)指導や助言を受け止め、行動に活かす</p>					
	医療現場での対応	<p>(1)患者対応をする（誘導、声かけ等） (2)各処置に必要な器具・材料・薬品を述べる (3)各処置に必要な器具・材料・薬品の準備・取扱いをする (4)歯科治療の術式を述べる (5)円滑な診療を行うためのアシスタントワークを実践する (6)術者に合わせたバキューム操作を行う (7)快適な診療環境を整える</p>					
	安全管理	<p>(1)清潔・不潔の区別をする (2)医療廃棄物の取扱いを行う (3)診療室内の感染予防ルールを守り、感染対策に努める</p>					
評価方法	<p>実習レポート、実習態度 ※詳細は、実習要綱参照</p>						

授業科目	臨床実習Ⅱ (病院)	担当教員	臨床実習指導者	単位数	2	時期	2年次 1月～3月
				時間数	90		
目的と目標	<p>病院歯科の診療内容の把握をするとともに、歯科衛生士業務の見学、診療補助および介助を行うことにより、医療人としての自覚と専門的な知識・基礎技術を深め、実体験を通して理解する能力を養う。</p> <p>1 医療人としての基本姿勢：医療人としての人間性や倫理観、コミュニケーション能力を習得するために臨床における歯科衛生士の役割を理解し、医療人としての基本的姿勢を身につける</p> <p>2 医療現場での対応：①患者対応の技術を身につける ②チェアサイドでのアシスタントの業務を身につけるために共同動作の基本とルールを理解し、臨床手技を習得する ③歯科治療で使用する材料、薬品の性質を理解し、取り扱いを習得する ※特に口腔外科について理解する ④全身疾患を抱えた患者に対する支援を理解する</p> <p>3 安全管理：感染予防に対する知識を習得し、安全な医療が行える技術を身につける</p>						
行動目標	医療人としての基本姿勢	<p>(1)医療人としての倫理観を養う (2)患者やスタッフとコミュニケーションを図る (3)チームワークを図り、円滑に行動する (4)学生としての責任を認識し行動する (5)自身の行動を振り返り、自己の課題を明確にする (6)指導や助言を受け止め、行動に活かす</p>					
	医療現場での対応	<p>(1)患者対応をする（誘導、声かけ等） (2)各処置に必要な器具・材料・薬品を述べる (3)各処置に必要な器具・材料・薬品の準備・取扱いをする (4)外科処置の術式を述べる (5)円滑な診療を行うためのアシスタントワークを実践する (6)術者に合わせたバキューム操作を行う (7)抜歯後の患者指導を行う (8)カルテから患者の全身状態を読みとる (9)チーム医療の必要性について述べる (10)快適な診療環境を整える</p>					
	安全管理	<p>(1)清潔・不潔の区別をする (2)医療廃棄物の取扱いを行う (3)診療室内の感染予防ルールを守り、感染対策に努める</p>					
評価方法	<p>実習レポート、実習態度 ※詳細は、実習要綱参照</p>						

授業科目	臨床実習Ⅲ (歯科診療所③)	担当教員	臨床実習指導者	単位数	2	時期	3年次 11月～12月
				時間数	90		
目的と目標	<p>歯科衛生士として必要な専門的知識や基礎技術、臨床実習ⅠおよびⅡで習得した知識や技術を応用・展開させ、ニーズに応じた適切な支援を提供する能力を養う。</p> <p>1 予防処置：予防処置についての基礎知識をもとに、情報収集に必要な検査・処置を行うための知識および技術を習得する</p> <p>2 診療補助：歯科診療補助を統合し、応用・展開できる能力を養う</p> <p>3 歯科保健指導：年代、状況に応じた歯科保健指導を実施する能力を養うために歯科医師・歯科衛生士の患者指導・患者教育を観察することができる 口腔の保健管理を行うための情報収集を行い、問題点を分析したケアプランを作成できる能力を身につける</p>						
行動目標	予防処置	<p>(1)口腔の状態を観察する</p> <p>(2)歯周組織検査の診査方法を説明する</p> <p>(3)口腔内の状況を把握するための検査・測定をする</p> <p>(4)口腔内の状況を記録、説明する</p> <p>(5)スクレーリングの基本操作を実施する</p>					
	診療補助	<p>(1)各歯科治療時の診療補助をする (歯科保存治療、歯内療法治療、歯科補綴治療、小児歯科治療、矯正歯科治療、要介護・障害者における歯科治療)</p>					
	歯科保健指導	<p>(1)歯科医師・歯科衛生士の患者指導・患者教育を観察する</p> <p>(2)全身的な疾患と歯科との関連を述べる</p> <p>(3)生活習慣、口腔内の状況を含めた情報収集を行う</p> <p>(4)収集した患者情報から歯科衛生上の問題点の分析を行う</p> <p>(5)歯科衛生ケアプランを作成し、業務記録を記載する</p>					
評価方法	<p>実習レポート、実習態度 ※詳細は、実習要綱参照</p>						

授業科目	臨床実習Ⅲ (病院①)	担当教員	臨床実習指導者	単位数	2	時期	3年次 6月～7月
				時間数	90		
目的と目標	<p>歯科衛生士として必要な専門的知識や基礎技術、臨床実習ⅠおよびⅡで習得した知識や技術を応用・展開させ、ニーズに応じた適切な支援を提供する能力を養う。</p> <p>1 診療補助：口腔外科における歯科診療補助を統合し、応用・展開できる能力を養う 各実習施設の感染対策を守った行動をとることができる 全身疾患のある患者対応について観察することができる</p> <p>2 歯科保健指導：対象者に応じた歯科保健指導を実施する能力を養うために歯科医師・歯科衛生士の患者指導・患者教育を観察することができる</p> <p>3 医療連携：病診連携の基礎知識を基に、その方法や役割を理解できる</p>						
行動目標	診療補助	<p>(1) 各口腔外科治療時の診療補助をする</p> <p>(2) 感染対策に従ったアシスタントワークをする</p> <p>(3) 全身疾患のある患者への関わり方について理解する</p>					
	歯科保健指導	<p>(1) 歯科医師・歯科衛生士の患者指導・患者教育を観察する</p> <p>(2) カルテ等から患者の情報収集を行う</p> <p>(3) 全身的な疾患と歯科との関連を述べる</p> <p>(4) 処置に応じた術後指導をする</p>					
	医療連携	<p>(1) 病診連携の必要性を理解する</p> <p>(2) 実習施設での連携方法の仕組みを理解する</p> <p>(3) 病院歯科と歯科診療所の役割の違いを理解する</p>					
評価方法	<p>実習レポート、実習態度 ※詳細は、実習要綱参照</p>						

授業科目	臨床実習Ⅲ (病院②)	担当教員	臨床実習指導者	単位数	2	時期	3年次 9月～10月
				時間数	90		
目的と目標	<p>歯科衛生士として必要な専門的知識や基礎技術、臨床実習ⅠおよびⅡで習得した知識や技術を応用・展開させ、ニーズに応じた適切な支援を提供する能力を養う。</p> <p>1 診療補助：口腔外科における歯科診療補助を統合し、応用・展開できる能力を養う 各実習施設の感染対策を守った行動をとることができる</p> <p>2 歯科保健指導：口腔の保健管理を行うための情報収集を行い、問題点を分析したケアプランを作成できる能力を習得する</p> <p>3 周術期等口腔機能管理：周術期等口腔管理の基礎知識を基に、その方法や技術を観察する</p> <p>4 院内医療連携：病院内における医科歯科連携や医療チームを観察し、その方法や病院歯科の役割を理解する</p>						
行動目標	診療補助	<p>(1) 各口腔外科治療時の診療補助をする</p> <p>(2) 感染対策に従ったアシスタントワークをする</p>					
	歯科保健指導	<p>(1) 全身的な疾患と歯科との関連を述べる</p> <p>(2) 生活習慣、口腔内の状況を含めた情報収集を行う</p> <p>(3) 収集した患者情報から歯科衛生上の問題点の分析を行う</p> <p>(4) 歯科衛生ケアプランを作成し、業務記録を記載する</p>					
	周術期等口腔機能管理	<p>(1) 周術期等口腔健康管理の必要性を理解する</p> <p>(2) 実習施設での周術期等口腔機能管理の仕組みを理解する</p> <p>(3) 周術期等口腔健康管理の具体的方法を理解する</p>					
	院内医療連携	<p>(1) 病院における医科歯科連携・医療チームの必要性を理解する</p> <p>(2) 実習施設での医科歯科連携・医療チームの仕組みを理解する</p> <p>(3) 各医療チームを構成する専門職の役割を理解する</p> <p>(3) 病院内における歯科の役割と他職種との連携方法を理解する</p>					
評価方法	<p>実習レポート、実習態度 ※詳細は、実習要綱参照</p>						

授業科目	臨地実習 I	担当教員	臨地実習指導者	単位数	2	時期	2年次 9～11月
				時間数	90		
目的と目標	<p>さまざまな対象者と積極的に関わり、対象者を理解する努力をするとともに、学んだ知識や技術を各臨地施設において、応用・展開させ、実践できる能力を養う。また、各対象者に応じた歯科保健指導ができる技術を習得する。</p> <p>1 幼稚園 発育段階及び日常生活行動、食支援について理解し、幼児への口腔衛生活動を円滑に展開する方法を学ぶ。</p> <p>2 特別支援学校 発育段階および日常生活行動を理解し、児童・生徒への口腔保健管理を適切に行うための方法を学ぶ。</p> <p>3 介護老人福祉施設・介護老人保健施設 対象の特性を理解し、口腔健康管理を実践するとともに、要介護高齢者の口腔機能の向上とQOLの向上に必要な方法を学ぶ。</p> <p>4 障害者福祉施設 対象の特性を理解し、口腔健康管理を実践するとともに、障害者の口腔機能の向上とQOLの向上に必要な方法を学ぶ。</p>						
行動目標	<p>幼稚園</p> <p>(1)幼児とのコミュニケーションをとることができる</p> <p>(2)幼児の日常生活行動の援助をすることができる</p> <p>(3)幼稚園教諭の対応を観察することができる</p> <p>(4)幼児の食支援について情報収集することができる</p> <p>(5)歯科保健教育教材を作成することができる</p> <p>(6)歯科保健教育教材を活用することができる</p> <p>特別支援学校</p> <p>(1)児童・生徒とのコミュニケーションをとることができる</p> <p>(2)児童・生徒の日常生活行動の援助をすることができる</p> <p>(3)教員・養護教諭の対応を観察することができる</p> <p>介護老人福祉施設・介護老人保健施設</p> <p>(1)対象者の特性や思いに関心を寄せ、個人として尊重した対応ができる</p> <p>(2)施設職員の対応を観察することができる</p> <p>(3)ケアプラン・看護記録や自身で観察した情報からアセスメントをとることができる</p> <p>(4)歯科衛生ケアプロセスの概念を理解することができる</p> <p>(5)対象者の口腔状態に合わせ、口腔清掃および口腔機能訓練を実施することができる</p> <p>障害者福祉施設</p> <p>(1)対象者の特性や思いに関心を寄せ、個人として尊重した対応ができる</p> <p>(2)施設職員の対応を観察することができる</p> <p>(3)ケアプラン・看護記録や自身で観察した情報からアセスメントをとることができる</p> <p>(4)歯科衛生ケアプロセスの概念を理解することができる</p>						
評価方法	幼稚園(25点)・特別支援学校(15点)・介護老人福祉施設および介護老人保健施設(35点)・障害者福祉施設(25点) 各施設、実習レポートと実習態度から評価 ※詳細は実習要綱参照						
実習期間	2年次・9月～11月						
実習施設	幼稚園・特別支援学校・介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障害者福祉施設						

授業科目	臨地実習Ⅱ	担当教員	臨地実習指導者	単位数	2	時期	3年次 4月～8月
				時間数	90		
目的と目標	<p>地域の公共施設や地域に密接している医療機関の実習を通して、保健活動や健康支援、施設利用者の口腔保健管理など社会的背景や個々の生活場面の背景を含めた支援方法を理解する。</p> <p>1 保健所・保健センター 地域保健事業の内容や地域住民の特性を理解し、適切な援助ができる能力を習得する</p> <p>2 在宅クリニック 配慮を有する人への口腔機能管理および多職種連携の知識を習得する</p> <p>3 障害者歯科診療所 配慮を有する人の治療方法や支援方法について知識を習得し、適切な援助ができる能力を習得する</p>						
行動目標	<p>保健所・保健センター</p> <p>(1)各施設の業務の概要を述べる (2)地域歯科保健活動に参加する (3)ライフステージに合わせた口腔機能管理を述べる (4)ライフステージに合わせた対応方法を述べる (5)専門職種の業務の概要を述べる (6)他の専門職とコミュニケーションを図る (7)保健教育媒体を作成する</p> <p>在宅クリニック</p> <p>(1)施設の業務概要を述べる (2)専門職種の業務の概要を述べる (3)他の専門職とコミュニケーションを図る (4)対象者の社会的問題や生活背景をアセスメントすることができる (5)アセスメントから口腔管理の支援方法を理解することができる (6)多職種連携の必要性を述べるができる</p> <p>障害者歯科診療所</p> <p>(1)障害児者に応じた対応方法を述べる (2)障害児者に応じた歯科治療の方法を述べる (3)障害児者の口腔状況や特性について述べる</p>						
評価方法	<p>保健所・保健センター(70点)：実習レポート、実習態度 ※詳細は、実習要綱参照 在宅クリニック(20点)：実習レポート 障害者歯科診療所(10点)：実習レポート</p>						
実習期間	3年次・4月～8月						
実習施設	保健所・保健センター、在宅クリニック、障害者歯科診療所						